

様式第 2 号

視察研修先	大阪府柏原市	氏名	阿部 清
視察研修項目	市内循環バス運行事業について		
概要 大阪府の中央東部で都心から20kmに位置し、西に藤井寺市、南に羽曳野市、北は八尾市に隣接しています。100年前からブドウ栽培が盛んな町で、市域は東西6.6km、南北6.63km、面積は25.39 k m²です。 所見 柏原市の循環バスは市内を走る公共バス路線が廃止されたことを受け、高齢者や障がい者の外出支援、地域活性化、公共施設や駅へのアクセス向上などを目的に平成10年に2台が無料で運行された。平成18年には、4台での運行になり、平成26年に5台体制となっている。 乗降者については、コロナ禍により減少したものの、それまでは平均して年間23万人の乗降者があったようだ。令和5年では18万人、1日772人と乗降者も戻ってきているとのこと。市内循環バス利用者のアンケート調査での回答者年齢構成は65歳以上が約8割、75歳以上が約6割を占めているようだ。移動の満足度が80%となっているが、バスのルートや運行本数、バス停の待合環境についての要望が出されている。循環バスは、無料で運転されているが運行費用を負担することに対し、8割の市民が容認しているようだ。 議長の挨拶の中で、循環バス事業に1億円の予算を計上している。課題も多く抱えているとの挨拶があり、市民の足としての事業についての大きな課題である。 令和6年11月から、デマンドタクシーの無料運行が3か月間試行されるとのことや、乗り入れ困難な空白地帯の対策も必要とされている。これからも市民目線の対策を期待するところです。 柏原市役所前から、職員のご厚意で循環バスに市役所から近くの駅まで乗行させていただいたが、20人位乗れるバスに10人位の乗客が乗っており高齢者の足になっている。 本市も、公共交通バスが通っているものの便数も少なく、高校生の通学バスになっており地区民にとっては利便性を感じていないのが現状である。人口減少と高齢化問題の中、公共交通の在り方について話し合う必要性が益々高くなっていくものと感じる研修であった。			

様式第 2 号

視察研修先	大阪府豊中市	氏名	阿部 清
視察研修項目	幼児教育サポートセンターについて		
概要 豊中市は、大阪中心部だけでなく、多方面のアクセスが容易であり、阪急電鉄や大阪モノレールや公共交通機関が充実している。高校野球発祥の地でもある。2024年1月人口40万6,836人・東西6km、南北10.3km、面積36.6K㎡のまちである。 所見 豊中市幼児教育サポートセンターは、すべての子供に質の高い幼児教育を提供することを目指しての設置や就学前施設を巡回して助言等を行う「幼児教育アドバイザー」の配置を行い、教職員の専門的な知見や豊富な実践経験を有する人材育成に取り組んでいる。 平成29年度から始まった幼児教育アドバイザー研修であるが、令和5年に、夏季研修会で初めて、分科会形式で開催し、保育士、保育教諭、教諭をはじめ子供に関わる大人が、子どもの姿を通して語り合い、主体的な遊びや学び、支援の在り方、環境づくりについて話し合われた。まだアドバイザーの活動は未知数にあるようだが、これからの活躍に期待したいと感じた研修でした。			

様式第2号

視察研修先	大阪府摂津市	氏名	阿部 清
視察研修項目	摂津SUN SUN塾について 教員の人材育成について		
概要 大阪平野の北部に位置するまちで、淀川の豊かな自然にはぐくまれ、古くから農耕が盛んで大阪と京都を結ぶ水陸交通の要衝としても重要な役割を担ってきた。大阪から12kmという距離にあり、幹線道路や鉄道で結ばれており核になる都市として発展し続けており、4,000社以上の事業所が立地。摂津市の優れた商品を「摂津優品」に認定している。昼夜人口大阪府2位であり、働く人の活気に溢れている。 小学生のランドセルは、購入金額も1万円位のリュックサック型のものを市から新1年生にプレゼントしている。人口8万6,346人、面積14.87K㎡のまちである。 所見 「摂津SUN SUN塾のこれまでの取り組みについて」 学習支援の場として、小学校6年から中学校3年生が対象で、市教育委員会が業務委託している。授業料は無料・教材費3,300円で実施している。会場は、公民館などが会場で250人が参加しており、平成29年度からスタートしている。教科は、算数、数学、国語、英語など個人にあった基礎的、基本的な学力向上をねらっている。地域や家庭の事情により、学校以外で学ぶことができない子供に対して、学習環境を提供している。募集チラシにより、受講生を募集し、受講決定は、三者面談で保護者と受講者本人が必須であり、勉強のきっかけづくりになっている。 「教員の人材育成について」 教員のなり手不足が深刻な状況になっている。団塊世代教員の大量退職もさることながら、特別支援教育を必要とする子供たちの増加や、病気により学校を休職している先生も問題になっているなど様々な要因があるなか、新任者研修から2年目、10年目研修などを行うなど、働きやすい環境づくりをしている。研修の中で、学校教育と作業療法士の連携などを取り入れた支援教育や、中学校の先生が小学校で、小学校の先生が中学校で社会体験学習やモンスターペアレント等を含む保護者対応研修など様々な研修を行いながら新任者研修を行い、様々な質問やアドバイスを受け、教え合う関係が働きやすい環境になっている。 本市も、教育に関しては、頑張っていると感じている。中学生が小学校で実習を行うことや、中学生が地域社会の課題提起解決など様々な形で地域に溶け込みながら学習していることは将来に向けた学習と感じている。地域がもっと子供に関わりながら、地域の子供が地域を考える環境づくりをしていくことは大人の責任かもしれないと感じた研修だった。			

様式第 2 号

視察研修先	株式会社コーミン(大阪府大東市)	氏名	阿部 清
視察研修項目	morinekiプロジェクトについて		
概要 大阪府の東部、河内地方のほぼ中央に位置する人口12万人・東西7.5km。南北4.1km、面積18.27K㎡の市である。 所見 大東市は公民連携基本計画において、能動的なまちづくり「自分で作った町に住む」を開発理念とし、大東に住み、働き、楽しむ、心と体が元気に、みんなの笑顔が集まる個性的な街を目指し、市営住宅跡地に、全国で初めてPPP手法を用いた、借り上げ公営住宅となる住宅棟、生活利便施設等の整備をしている。 株式会社コーミンの入江社長は、元市職員で建築技師として入庁、市営住宅や学校などを担当していた。「このやり方でいいのか」課題意識をずっと持っていたが、どこにでもある市営住宅しかできないと思っていた。しかし、岩手県紫波郡紫波町木下斉町長は、国の補助金に頼らない公民連携のまちづくりを行っており、その講演会に行き受講生の1期生になったのがきっかけとなっている。 2021年3月、大東市による市営住宅の建て替えを民間主導の公民連携型で国内初のプロジェクトで、市と民間が連携してPPP手法を用い、民間賃貸住宅、オフィス、商業施設や芝生の都市公園などに作り替えて賑わいの場を創出、地域全体の価値や機能を高めたプロジェクトを完成させた。 現地を見学させてもらうと、商業地と市営住宅の周辺を芝生公園にして一体化していた。商業地内の店舗には、買い物客が多くレストランにはお昼の時間ということもあり、多くのお客さんで賑わっていた。 市営住宅地は中央に芝生と樹木が植えてあり、2階建てと3階建てで木造建築である。空いている部屋も見せていただいたが、クーラーが設置してありコンパクトな造りである。見学中、住民が親しげに話しかけてくれ住民と設置者の距離感が近いと感じた研修であった。空いている部屋は、新婚世帯等を優先的に募集している。また、高齢で生活支援や手すり等が必要な世帯にも地域包括支援センターと連携し、安心して住み続けられる支援をしている。 本市も、少子高齢化が進む中、住みやすい環境づくりも考慮した市営住宅についての計画を期待したい。			